スーパーオンリーワン
ハイスクール事業
（スタンダード）

「松西　藍プロジェクトⅡ」

中間報告

～ 「藍」とのふれあいを通して高校生が考える新たな伝統文化の伝承 ～

徳島県立小松島西高等学校

昨年度のスーパーオンリーワンハイスクール事業（チャレンジ）における取組を発展させ，専門高校の特性を生かした活動に拡大する。
○専門高校である本校・勝浦校の6学科すべてで取り組む。
○「藍」の普及活動，情報発信に取り組む。
○「生葉染め」研究の深化と作品製作
○「生葉染め」における綿の染色についての研究
○「鹿革」や「レジン」など，藍染めの新しい魅力についての研究

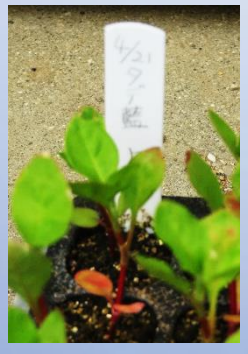
＜6学科の取組＞

学科	取組の概要	具体的な活動	普及活動
商　業　科	マーケティング・意識調査 販路開発・拡大	豪華客船寄港時の販売活動，マーケティング等 各種イベントの企画	豪華客船寄港時の 販売活動
食　物　科	「食藍」の研究 食から「藍」のプロデュース	「藍」の種や葉を用いた商品開発 「藍染」和紙や布，レジン等を用いたテーブルコーディネート	イベントでの販売 ミニカフェ
生活文化科	生葉染めの研究（絹，綿など） 藍を用いた新しいデザイン 新しい材料を用いた作品作り	綿にタンパク質を付着させての生葉染めの研究 藍染布，生葉染の布を用いた衣装デザイン・製作 高校生が考える藍染め小物の企画・製作 革細工（鹿革の活用）やレジン等を用いた藍染め作品製作	保育園児との交流 ファッションショー イベントでの販売 恩山寺でのお接待
福　祉　科	藍染めの魅力の普及・広報活動	豆絞り手ぬぐいの藍染め染色体験 施設やイベントでの広報活動（阿波おどり体操）	小松島はちはち狸祭り 松寿園文化祭
応用生産科	「藍」の栽培	勝浦校の圃場及び本校藍の館前での藍の栽培と染色体験	生活文化科との交流
園芸福祉科	「藍」の普及活動	中学校等との藍染め（生葉染め）交流	勝浦中学校との交流

＜勝浦校と生活文化科2年生の交流学習＞

生活文化科2年生と勝浦校応用生産科の生徒が交流学習を行い，圃場の整備，藍の種まき，植付，草抜きなど，藍の栽培と生育状況の観察を行うとともに，育てた「藍」の葉を用いた「生葉染め」を行い，「藍」や「藍染」への理解を深めた。さらに勝浦中学校対象に生葉染め体験講座を行い，藍染めの普及に努めた。また，藍の種を取り，恩山寺のお接待などの機会に配布し，「藍」の栽培の普及活動を行った。

○勝浦校の圃場での取組



○本校花壇の整備・藍の植え付けと観察

＜生葉染め＞

○勝浦校・生活文化科と勝浦中学校との交流学習

○勝浦校と生活文化科の交流学習

藍を刈り取り，さらに葉を摘み取る。
ミキサーに藍の葉と水を入れて攪拌し，液を晒し木綿の袋に入れて濾す。
生葉の液に布を入れて，漬け込む。その際，布が空気に触れないように気をつける。

液の色は上の写真のように緑色であるが，空気に触れると薄い青に発色する。発酵建ての藍染では表現できない爽やかな青色になる。

＜食物科，福祉科藍染体験＞

夏季休業中に，本校「藍の館」にて食物科は和紙を，福祉科は晒し木綿を手ぬぐいサイズに縫製した布を染めた。
食物科は，染めた和紙をテーブルコーディネートへ活用し，福祉科は施設の文化祭や小松島はちはち狸まつりで披露する「阿波踊り体操」で使用する。

○食物科

○福祉科

＜生活文化科3年生の取り組み＞

○課題研究（3年）における藍染商品企画・製作

レジン講習会（生活文化科3年）

10月15日（月），生活文化科3年生（20名）対象にレジンを活用したアクセサリー製作講習会を開催しました。講師はアクセサリー作家の天白先生です。先生は，ドライフラワーを用いたレジンアクセサリー製作をされています。3年生は「課題研究」において，藍の普及と新しい活用方法について研究し，若者に「藍」がもっと受け入れられ，その美しさや価値を理解してもらうために作品製作に取り組んでいます。今回の体験活動を，今後の商品開発等に生かしていきたいです。

材料・用具等

デザインを考え，モールドの中にレジンとドライフラワーや素材をレイアウトします。細かい作業です。
UVライトで硬化させます。その後，アクセサリーパーツを配置して再度，硬化させます。

完成した作品です。
今後は，本校藍の館前で育てた藍の花をドライフラワーにしたり，藍の端布や糸，繊維等を利用して作品製作に応用します。

藍の花のドライフラワー

レジン講習会を受けた染色手芸部の3年生が，1・2年生に伝達講習を行い染色手芸部で藍や藍の花のドライフラワーを用いたレジン作品を制作した。

○アパレルアートにおける鹿革の活用

鹿革を利用した印鑑ケース製作講習会（生活文化科3年）

10月29日（月），生活文化科3年生（20名）対象に鹿革を活用した講習会を開催しました。講師は革細工に取り組まれている久保フミコ先生です。3年生は「アパレルアート」において，革の活用について学び，先日は徳島文理大学と交流学習を行いました。今回は，鹿革に着色して絵を描き，オリジナルの印鑑ケース製作に取り組みました。

材料（左下がタンニンなめしの鹿革）　久保先生　久保先生の作品

鹿革にクラフト染料で着色し，デザインを写します。下絵の輪郭をアクリル絵の具のゴールド又はシルバーでなぞります。細い線を描くことに苦戦しました。

アクリル絵の具で着色します。思い描いた色を先生に作っていただき，筆遣いを教わり丁寧に塗りました。
塗り終わったら，クラフト染料をサラシで再度塗り込み，絵の周囲をウールの布で磨きます。

仕上剤を塗ってつや出しします。裏布を貼ったり成形して印鑑ケースの形に整えます。

一生使える印鑑ケースができました。久保先生，ご指導ありがとうございました。

徳島県でも獣害として問題になっている鹿は，ジビエ料理の食材として活用され始めているが，革の利用はまだ少ない。
生活文化科3年生では，エシカルの視点も踏まえ，鹿革の利用について研究した。鹿は，牛革に比べて革が薄く刻印などの加工がしにくいことがわかった。また，鹿革の藍染による染色を行ったが，前処理（水につける等）の時間がかかること，染色においても数時間から数日かかることがわかった。また，革のなめし方により，染め上がりの色や革の柔らかさにも違いが生じた。鹿の革自体は廃棄物であるが，加工に費用がかかり，手に入れる際には高価なものとなっていることも，課題である。今回は，藍染した革を利用した小物製作を試験的に行った。また，藍染布製品とのコラボレーションも行った。

○グループ研究

グループに分かれ，藍を用いた商品企画・製作を行った。コンセプトは，若い人にも愛用される藍染製品である。他の布との組み合わせやレースやビーズ等と組み合わせてかわいらしい作品になるように工夫した。作品は，文化祭やはちはち狸まつり，産業教育展等で販売した。